

柏北部東地区小山台遺跡(88)出土の有撮石器について

白鳥章

はじめに

千葉県柏市の西部を南北に縦断する常磐新線（「つくばエクスプレス」）の鉄道建設に伴う柏北部東地区土地区画整理事業に際して、平成10年から埋蔵文化財発掘調査が実施されており、現在も継続中である。

調査の主体者は、公益財団法人千葉県教育振興財団（旧・財団法人千葉県文化財センター）である。

今回紹介する資料は、平成28年度に調査を行った小山台遺跡(88)の縄文時代前期（黒浜式期）の竪穴住居跡から出土した石器であるが、資料の重要性に鑑み、調査報告書の刊行に先立って資料紹介をするものである。

1 遺跡の位置及び環境

小山台遺跡は、柏市大室字前畑地先の台地上に所在し、常磐新線「柏たなか駅」から谷一つ挟んだ東南部に当たる。当遺跡の範囲は広大で、最北端は利根川を眼下に望む台地の突端部、最南端は千葉県道7号我孫

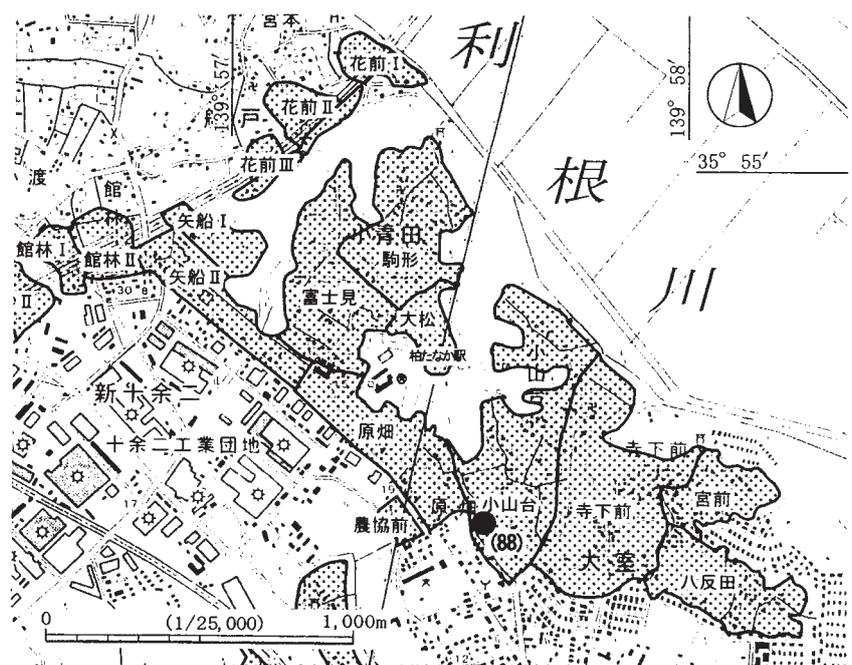
子関宿線付近に及ぶ南北に長い遺跡である（第1図）。

小山台遺跡(88)は、当該遺跡の88番目に調査した地点を意味し、小山台遺跡の南西端に当たる。柏北部東地区には他に10か所の遺跡が所在し、(88)地点は西側に位置する原畑遺跡の一部隣接する。

当該遺跡の北西部には、利根川から掌状の支谷が浸入しており、(88)地点は、その最南端部に当たる谷頭の南周辺部に位置する。標高は約17mで、低地との比高は8m程度である。

2 遺跡の時代及び遺構等の概要

小山台遺跡の主な時代は、旧石器時代～縄文時代である。旧石器時代については、前述した支谷縁辺部に石器集中地点がブロック状に点在しており、縄文時代については、支谷から若干内陸に入り込んだ位置に前期から中期を主体とした集落が営まれていたと想定される。中でも遺跡の中間部には縄文時代中期の環状集落が2か所形成されていたことが解明されつつある。



第1図 柏北部東地区遺跡群関連遺跡分布図 新田2015を一部改変

(88)地点においては、旧石器時代石器集中地点の南縁辺部の一部、縄文時代早期陥穴2基、縄文時代前期黒浜式期の竪穴住居跡7軒以上、中世～近世の溝状遺構10条等が確認されている。

今回資料紹介する石器は、縄文時代前期の竪穴住居跡SI-001の覆土から出土した「有撮石器」である。

3 資料の紹介

(1) 石器出土遺構の概要

SI-001は、縄文時代前期黒浜式期の竪穴住居跡で、西側半分は原畑遺跡に属する。規模は長径5.5m、短径4.1mの隅丸方形である。柱穴は2基、北東隅に地床炉が1基、中央部に硬化した床面が確認された。また、床面から若干浮いた状態で、貝ブロックが出土した。原畑遺跡に跨る範囲については、小山台遺跡(88)の調査に継続して発掘調査を実施したが、水道工事等の影響で、遺構の大半が攪乱を受けていることが判明した。

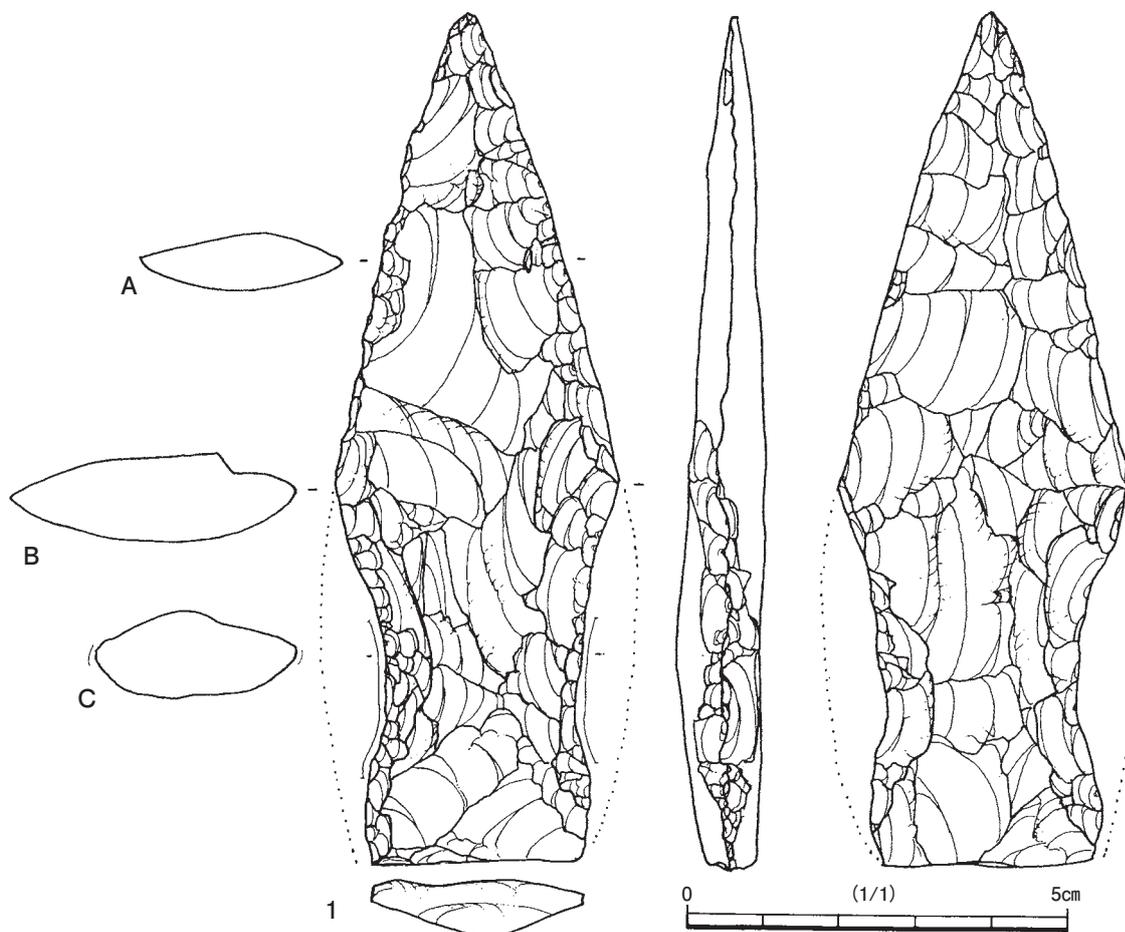
(2) 有撮石器について

今回紹介する形態の石器については、「有撮石器」・

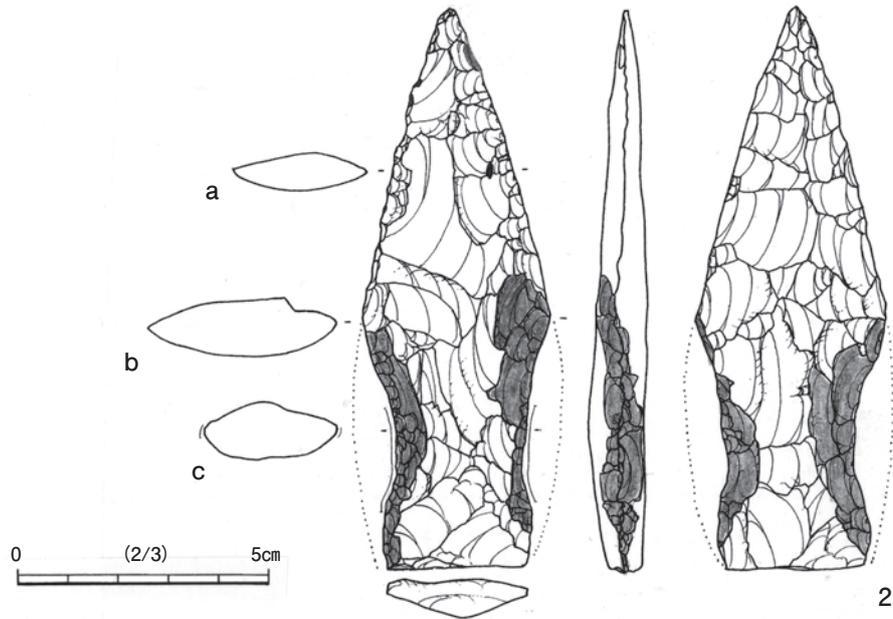
「(撮み付き縦型)石匙」・「尖頭器」・「押出型石匙・石槍」等の様々な名称があるが、所謂「石匙」との混同を避けるために、ここでは「撮(つま)みを有する石器」とした。なお、「撮み」という文言は、球状の突起を連想させるが、今回の資料はやや趣が異なることを申し添えたい。

SI-001から出土した有撮石器の特徴は、以下のとおりである(第2・3図)。

- ① 名称：有撮石器(両面加工)
- ② 時期：縄文時代前期
- ③ 出土状態：縄文時代前期黒浜式期の竪穴住居跡(SI-001)の覆土
- ④ 大きさ：長さ 11.2cm
幅 3.7cm
厚さ 1.1cm
重さ 49.88g
- ⑤ 石材：ガラス質黒色安山岩
- ⑥ その他：
・旧石器時代終末期の大型尖頭器(両面加工)の再利用で、再加工時にはすでに折れていた模様



第2図 小山台遺跡(88)出土有撮石器



第3図 小山台遺跡(88)出土有撮石器 黒彩部は再加工跡

である。

- ・大型尖頭器の断面は凸レンズ形で、両側縁は尖鋭かつ直線的である。調整は平坦剥離。先端部は尖鋭である。
- ・下半分の二側縁にノッチ状の再加工（黒彩）が見られ、他の面と風化の色調が明瞭に異なる。また中央部には潰れが見られる（第3図-2）。
- ・共伴遺物は、縄文時代前期黒浜式期の土器、石器（焼礫等）、貝（主にハマグリ、アサリ、オキシジミ）などである。

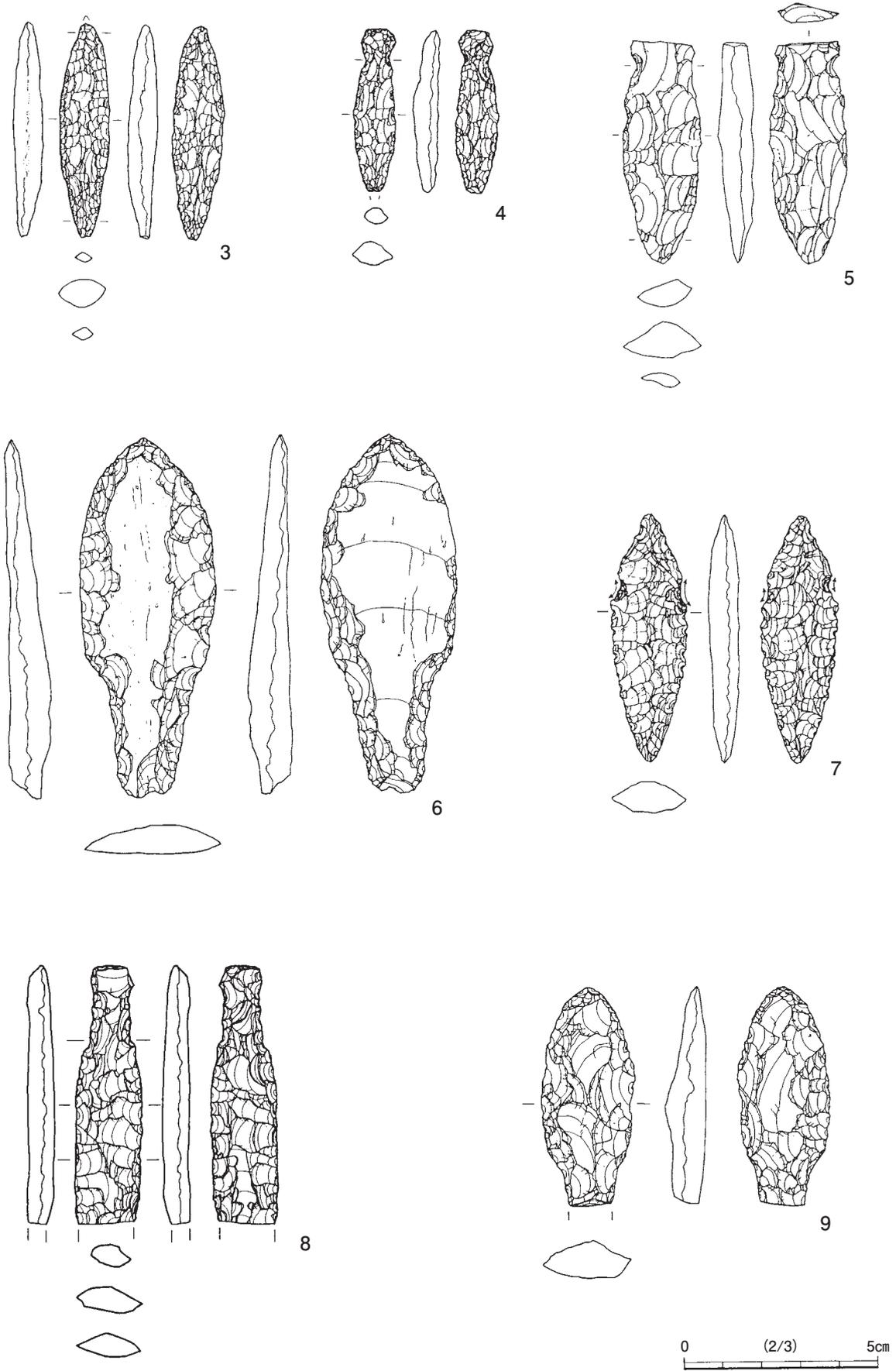
3 関連資料（表1）

柏市域から類例品が7点出土しており、柏市教育委員会が『原遺跡（第3～6次）』（2013）で集成している。本資料は、その中でも駒形遺跡出土の縦型石匙（第4図-5）に最も類似していると思われるが、駒形遺跡出土例より尖頭部両側縁が直線的である。

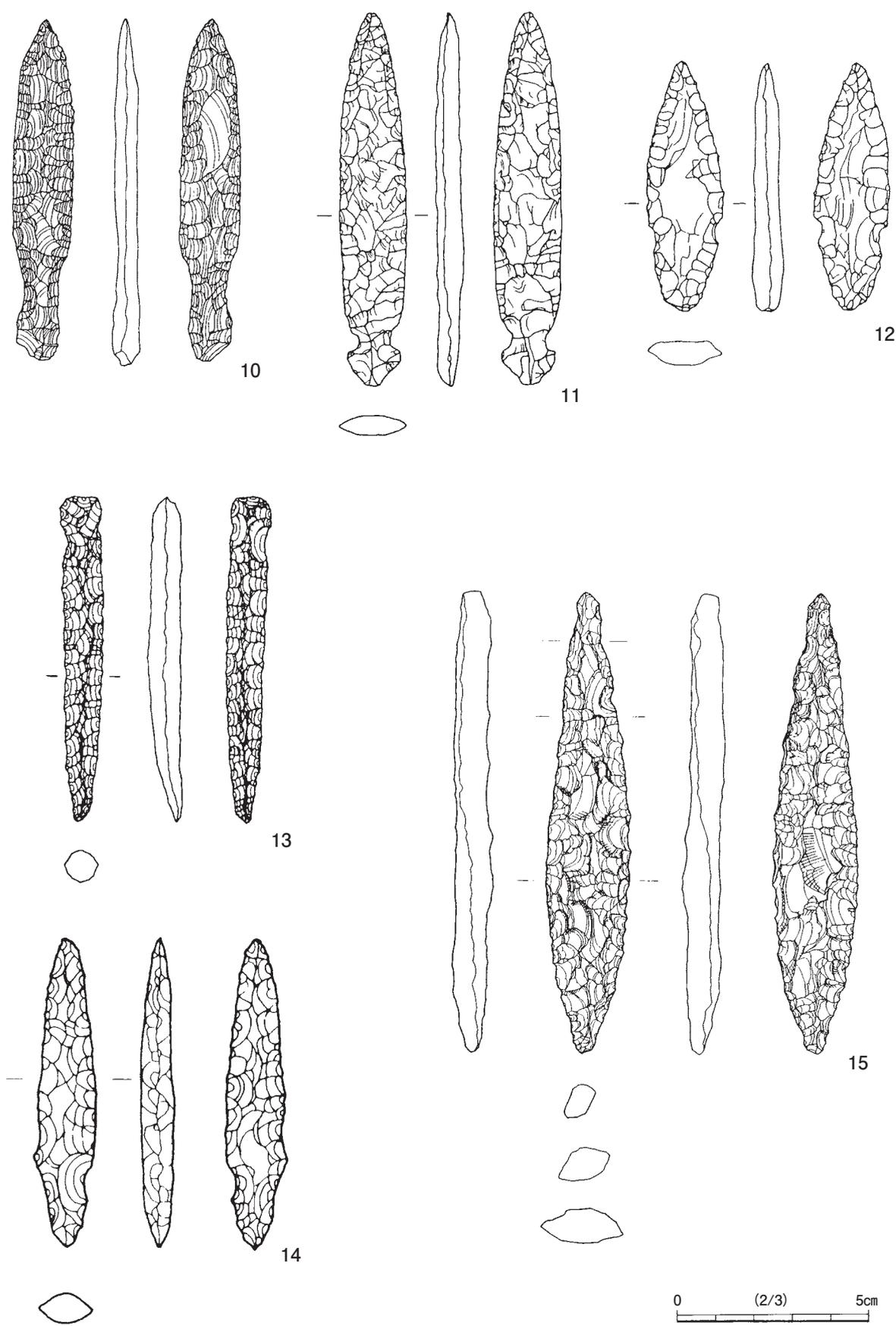
このほか近隣の類例は、茨城県出土の資料を萩野谷悟氏が『常総台地 15』（2000）で集成しており、その中では、第5図-12の資料が比較的類似していると思われる。

表1 近隣地域の有撮石器関連資料表

挿図	番号	地域	遺跡名	資料の時期	器種名	遺構名	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	質量 (g)	石材	備考	
2・3	1・2		小山台遺跡(88)	縄文時代前期 (黒浜式期)	有撮石器	SI-001	11.2	3.7	1.1	49.88	ガラス質黒色安山岩	堅穴住居覆土出土	
4	3	千葉県	駒形遺跡	縄文時代前期 (花積下層式又は黒浜式期か)	尖頭器	SI-005	(5.55)				チャート	柳葉形尖頭器、左側縁にグラインディングによる摩耗痕	
				縄文時代前期 (黒浜式期か)	石匙	B地区SI-013	(4.12)				チャート	縦型石匙、尖頭器の再加工か	
					石匙	E地区221-89-1	(6.11)				ガラス質黒色安山岩	縦型石匙	
	6	柏市	原遺跡		石槍	遺構外	9.27	3.42	0.98	31.5	ガラス質黒色安山岩 (大洗産)	第1次調査の表面採集資料、基部に素材断面が残置する	
	7		寺山遺跡		石槍						硬質頁岩	旧石器時代の槍先形尖頭器を再加工	
	8		鶴居西原遺跡	縄文時代前期 (黒浜式期～浮島式期か)	石槍	遺構外	(6.66)	1.68	0.66	10	チャート		
	9		伝手賀地区		石槍		(5.62)	2.29	1.06	12.2	チャート	寄贈品	
	5	10	茨城県	ひたちなか市遠原貝塚	縄文時代前期 (黒浜式期～浮島式期)	石槍	J2号住居址	12.5	2.1	0.9		硬質頁岩	柳葉形
		11		水戸市中ノ割遺跡		石槍		13.3	2.4	1.0		硬質頁岩	柳葉形、挟りが深い、別の石器の再利用か
12					石槍					硬質頁岩	有撮石器か		
13		鉢田町梨ノ子木久保遺跡		縄文時代前期 (浮島式併行大木4式期)	尖頭器・有撮石器	遺構外	11.3	1.1			硬質頁岩	断面算盤玉状	
14		友部町向原遺跡			有茎尖頭器	遺構外	11.0	2.2	1.2		硬質頁岩	柳葉形、別の石器の再加工・再利用か	
15		(岩間町上郷地先)		有撮石器		12.3	2.3	1.0	24.3	硬質頁岩(東北地方・日本海産か)	山林の斜面単独出土、挟り・握みあり、木葉形尖頭器の再加工・再利用か		



第4図 柏市域出土の関連資料



第5図 茨城県出土の関連資料

4 まとめ

今回紹介した資料は、本格的な整理作業が未着手のため、詳細な記述及び考察は避けた。現時点で想定できることは、以下のとおりである。

- ①縄文時代前期黒浜式期の竪穴住居跡からの出土品であり、当該時期の所産であることは確実である。
- ②旧石器時代終末期の大型尖頭器（両面加工）を採取した縄文時代前期の縄文人が再利用したと考えられる。
- ③形態的に優品であり、実用品というより、権威を示す「威信財」の可能性がある。

今回の執筆に当たっては、十分な資料調査が不足しており、多くの関連資料の見落としが想定できるが、今後の資料研究の一助となれば幸いである。

なお、本稿を執筆するに当たり、資料の実測は橋本勝雄氏によるものであり、また、多くの御助言をいただきました。末筆ながら感謝申し上げます。

引用・参考文献（五十音順）

- (1)秋田県教育委員会 1988『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅱ』秋田県文化財調査報告書第166集
- (2)上守秀明 2009『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書3 - 柏市駒形遺跡 - 縄文時代以降編1』千葉県教育振興財団調査報告第616集 公益財団法人千葉県教育振興財団
- (3)大工原豊 2008『縄文石器研究所論』株式会社六一書房
- (4)大工原豊 2012「威信財としての縄文石器 - 抉入尖頭器・石槍、天神型石匙 -」『季刊考古学』第119号
- (5)大工原豊 2015「縄文石器の流通と文化」『平成27年度 縄文大学第1回資料』船橋市教育委員会
- (6)萩野谷悟 2000「茨城県岩間町上郷出土の有掘石器」『常総台地』15
- (7)新田浩三 2015『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書8 - 柏市富士見遺跡・原畑遺跡・駒形遺跡 - 旧石器時代編』千葉県教育振興財団調査報告第737集 公益財団法人千葉県教育振興財団
- (8)橋本勝雄 2016「柏北部東地区出土の旧石器・縄文時代の石器3例」『研究連絡誌』第77号 公益財団法人千葉県教育振興財団
- (9)渡辺健二・高城大輔・折原洋一 2013『原遺跡（第3～6次） - 旧吉田家住宅歴史公園整備事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ -』柏市教育委員会
- (10)忍澤成視ほか 2013『市原市天神台遺跡Ⅰ』市原市教育委員会